

総括研究報告書

1. 研究開発課題名： アロマセラピーに関するエビデンス収集及び新たな科学的知見の創出
2. 研究開発代表者： 貴島 晴彦 大阪大学大学院 医学系研究科 脳神経外科
3. 研究開発の成果

新たな科学的エビデンスの創出として、HPLC の手法を用いてパルミトリン酸を多く含むマカダミアナッツキャリアオイルがマッサージで経皮吸収されることを明らかにした。また、そのマカダミアナッツオイルの経皮吸収により、耐糖能が改善されたことを示した。これらは、アロマセラピーの経皮吸収により、内分泌的な改善効果が得られることを示唆するものである。また経鼻吸収については、アロマセラピーとそのプラセボを比較することにより、ラベンダーの芳香により活気の指標が低下することや、グレープフルーツの芳香により混乱の指標が低下するなど、それぞれの芳香により特有な気分の変調を促す効果が得られることを示した。それらの、アロマの芳香によりもたらされる気分の変調と脳活動の変化に相関があることが脳磁図を用いて示された。特に、 α および β 帯域での変化が著明であった。

エビデンス収集については、医療従事者、アロマセラピー関連団体、一般アロマセラピストを対象にアンケート調査を行い、多くの回答をえることができ、アロマセラピーについての国内の状況を分析する準備ができた。さらに最近の専門書 (ELSEVIER 社 Clinical Aromatherapy) の翻訳を行い国際的な現状を把握することができた。また、pubmed、コクランレポート、その他のデータベースを用いて医療応用可能なアロマセラピーの研究報告を多数抽出し、そのエビデンスレベルについて検索した。これにより、アロマセラピーに関する国内外の文献のエビデンスレベルを把握することができた、これをガイドライン作成のためのデータベースの基礎とした。さらに、次年度からのガイドライン作成のため、各臨床分野専門医によるエビデンス収集を行うため体制を構築し、そのメンバーでガイドライン作成のためのミーティングを行った。これらによりメンバーによるガイドライン作成のための準備が整い、作成を開始した。